開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	基礎理論		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　28　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	電気に関する基礎的な知識、計算能力と理論と応用を学び、実際に活用する能力を育てる。		
授業内容	①直流回路 電流・電圧・抵抗 オームの法則 抵抗回路 電流の作用 ②磁気 磁力の性質と働き 誘導インダクタンス ③静電気 電解の性質 コンデンサ ④交流回路 基本回路とその性質 直列回路の計算		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　□後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気回路		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	電気回路における公式を理解し計算方法について理解する。		
授業内容	①原子の構造 ②半導体の性質 ③トランジスタ回路 ④ダイオード回路 ⑤各種半導体素子 ⑥電界効果トランジスタ ⑦半導体集積回路 ⑧２進数・１０進数・１６進数 ⑨ベン図・論理回路 ⑩フリップフロップ		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　□後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気通信の基礎		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　28　時間／後期　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	電気通信回線ついての伝送理論を理解し、デジタル伝送路の伝送技術について理解する。		
授業内容	①電気通信回線の伝送量 ②伝送量の計算 ③電気通信回線の電気特性 ④反射 ⑤漏話 ⑥ひずみ、雑音、反響、SN 比 ⑦デジタル変調方式 ⑧多元接続方式・多重アクセス制御方式 ⑨PCM 伝送 ⑩光ファイバ通信		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　□後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	端末技術		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	ブロードバンドネットワークで用いられている各種端末設備・機器の機能について理解する		
授業内容	①ADSL モデム、スプリッタ ②IP 電話システムにおける各種端末 ③LAN の概要 ④LAN の伝送媒体 ⑤イーサネット LAN ⑥無線 LAN ⑦LAN の媒体アクセス制御方式 ⑧集線装置 ⑨LAN 間接続装置 ⑩雷害・電磁障害対策		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　□後期　□通期
授業方法	☒講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	接続工事技術		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	ブロードバンド回線の工事を行うにあたっての各種配線材料、配線工法、工事試験、施工上の設計・安全管理について学習する。		
授業内容	①メタリックケーブルを用いた LAN の配線工事 ②光ファイバケーブルを用いた LAN の配線工事 ③構内情報配線システム ④情報配線システムのフィールドテスト ⑤コマンド等による LAN の工事試験 ⑥IP ボタン電話装置 ⑦施工管理技術		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　□後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	情報セキュリティ		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	セキュリティに対する考え方、認証技術、攻撃の種対とその対策、運営管理上の技術について理解する。		
授業内容	①情報システムに対する脅威 ②暗号化技術 ③電子認証、PKI、デジタル署名 ④端末設備とネットワークセキュリティ ⑤情報セキュリティ管理		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　□後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	ネットワーク技術		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	TCP／IP の基礎や VoIP, アクセス技術等について理解する。		
授業内容	①通信方式と伝送方式 ②デジタル伝送路符号方式 ③IP ネットワークの概要 ④IP アドレス ⑤ネットワーク管理コマンド ⑥VoIP ⑦HDLC、ATM ⑧広域イーサネット、IP-VPN ⑨ブロードバンドアクセスの技術		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　□後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	通信法規		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　112　時間／後期　　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	法の目的、用語の定義など電気通信回線設備に端末設備等を接続するため法規について学習する。		
授業内容	①電気通信事業法 ②工事担任者規則 ③技術基準適合認定等規則 ④端末設備等規則 ⑤有線電気通信法、有線電気通信設備令 ⑥不正アクセス禁止法、電子署名法		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	配電理論		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　14　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	屋内幹線や分岐回路の設計について理解し、配線図の読み方、書き方について学習する。		
授業内容	①屋内配線の理論 配線に使用される電気 電気方式・配電方式 屋内配線の対地電圧 電線の太さの決め方 引込線及び引込口配線 開閉器・過電流保護・接地保護･接地 ②配線設計 引込口配線の設計 幹線の設計		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気機器		
実務経験教員	２０年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第１種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　28　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	電気機器の原理・構造・機能などを学び、その用途、使い方、特徴などを理解する。		
授業内容	電気機器 ①電気用品一般 ②電線 ③がいしとがいし管 ④テープ類 ⑤電線管類 ⑥線ぴおよびダクト ⑦配線器具 ⑧白熱灯器具 ⑨蛍光灯器具 ⑩特殊な光源の器具 ⑪家庭用電気器具 ⑫分電盤・配電盤		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	配線図		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　28　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	建物の平面図に書く配線図、電気の図記号について学習する		
授業内容	部品・機器の用途と図記号について ①スイッチ ②コンセント ③開閉器・遮断器 ④照明器具 ⑤機器・計器 ⑥配線・ケーブル・電線管 ⑦その他		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気工事実習		
実務経験教員	２０年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第１種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	基本的な電気工事回路を理解し、確実に作成を行う。		
授業内容	単位作業 ①コンセント回路 ②電灯・スイッチ回路 ③電灯・コンセント回路 ④パイロットランプ回路 ⑤３路スイッチ回路 ⑥４路スイッチ回路 ⑦自動点滅器 ⑧タイムスイッチ　等を使用した複合回路の作製		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	基本実習		
実務経験教員	２０年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第１種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	国家試験電気工事士試験公表問題の回路を理解し、確実に作成を行う。		
授業内容	第二種電気工事士技能試験公表問題 　製作手順の説明・製作 第一種電気工事士技能試験公表問題 　製作手順の説明・製作		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	応用実習		
実務経験教員	２０年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第１種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	基本的な技術を身に着け、電気回路の配線や電気機器の作成を行う。		
授業内容	電気回路の作成 電気・電子部品 はんだ付け 電気配線・取付 電動工具の使い方 ネジや付随する部品 組み立て作業　を使用した複合回路の作製		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気実習		
実務経験教員	２０年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第１種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	電気製図についての技術・知識を身に着ける。電気設備の配線方法や製図の基礎について学習する		
授業内容	電気回路図の作製 ①屋内配線図(平屋) ②屋内配線図(2 階建て) ③機械図面の読み方・描き方		
評価方法	①課題の作製 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	測定実習		
実務経験教員	２０年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第１種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	電気に関する実験・測定器・各種機器について理解を深め、取り扱い方法を学ぶことを目的とする。		
授業内容	各種計器による測定・使用方法・レポート作成 ①照度計 ②絶縁抵抗計 ③接地抵抗計 ④ホイートストンブリッジ ⑤検査方法 ⑥トランジスタの静特性 ⑦整流回路の特性 ⑧論理回路 ⑨デジタル IC カウンタ		
評価方法	①レポートの提出 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	□前期　☒後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	家電技術		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　時間／後期　28　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	家電製品の修理技術に必要な電気機器の原理、動作、構造、設置方法について習得し、正しく安全な使用方法を身につける。		
授業内容	各家電の取り扱い知識・動作原理・構造等について理解する ①エアコン ②空気清浄機、除湿器、加湿器 ③扇風機、換気扇 ④冷蔵庫 ⑤電子ジャー ⑥電子レンジ ⑦IH クッキングヒーター ⑧洗濯機・乾燥機 ⑨掃除機 ⑩照明器具 ⑪太陽光発電システム ⑫スマートハウス		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	☒講義　□演習　□実験・実習・実技		
科目名	キャリア教育		
実務経験教員	単元に合った現役の各種社会人（インターシップ・社会人講和など）が担当する。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　16　時間／後期　16　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科２年		
到達目標	社会人・職業人として必要とされる知識や技術を身につける。また、研修を含む企業との連携授業を行う		
授業内容	業界人講話 ①業界の現状 ②求められる人材 ③現場作業の実際 ④社会人としてのマナー 企業研修 ①現場の見学 ②作業手順 ③安全教育 ④技術の習得		
評価方法	①学期末の定期試験 ②学科目ごとに 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試や指定期日までのレポート作成により単位の回復を認める。		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気工事実習		
実務経験教員	２０年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第１種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科３年		
到達目標	工事方法を習得し、配線器具への配線方法についての技能を修得する。		
授業内容	①模擬家屋を使用して実践的な配線 ・LED ライト ・換気扇 ・ダウンライト ・エアコン ・コンセント ・アース ②個人課題作成		
評価方法	①課題作成の提出 ②試験課題作成 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポート提出		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	応用実習		
実務経験教員	２０年以上業務で電気工事実務経験のある教員が担当。第１種電気工事士免状を保持している者が担当。		
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科３年		
到達目標	現場で使われる電気・制御機器・シーケンス制御の基本や感電や漏電といったトラブルと対策について学習します。		
授業内容	①正転・逆転回路 ②スター・デルタ回路 ③インターロック回路 ④一致回路 ⑤順序開始回路 ⑥電源側優先回路 ⑦タイマ回路		
評価方法	①課題作成の提出 ②試験課題作成 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポート提出		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気実習		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　84　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科３年		
到達目標	シーケンス制御について、シミュレータを使用してプログラムを習得し、実機を用い配線接続、動作作業を習得する。		
授業内容	①PLC とは ②各種基本命令 ③プログラミングソフトの習得 ④基本命令プログラム実習 ⑤応用命令 ⑥配線接続・動作実習		
評価方法	①課題作成の提出 ②試験課題作成 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポート提出		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	CCNA		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　112　時間／後期　112　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科３年		
到達目標	小規模なネットワークの導入や運用、およびトラブルシューティングを行う知識と技能を養う		
授業内容	①　ネットワークとは ②　ネットワークＯＳの設定 ③　ネットワークプロトコルと通信 ④　ネットワークアクセス層 ⑤　イーサネット ⑥　ネットワーク層、トランスポート層 ⑦　ＩＰアドレス、ＩＰネットワークのサブネット化 ⑧　アプリケーション層 ⑨　基本的なスイッチの概念と設定 ⑩　VLAN ⑪　ルーティングの概念 ⑫　VLAN 間ルーティング ⑬　スタティックルーティング、ダイナミックルーティング ⑭　シングルエリアＯＳＰＦ ⑮　アクセスコントロールリスト ⑯　ＤＨＣＰ、　ＩＰｖ４のネットワークアドレス変換		
評価方法	①課題作成の提出 ②試験課題作成 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポート提出		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気製図		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科３年		
到達目標	製図の基本を学び、製図の技能・技術を習得する。電気機器の作図を行い構造等を理解する。		
授業内容	①製図の基本 ②機械・部品 ③電気機器 ④屋内配線図 ⑤自家用変電設備 ⑥シーケンス制御回路 ⑦電子機器		
評価方法	①課題作成の提出 ②試験課題作成 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポート提出		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	電子回路		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科３年		
到達目標	各種電子素子の働きと基本的な動作原理を習得し、電子回路を理解する。 また,マイコンを使用したプログラミング学習を行い、ソフトだけでなくハード面について電子回路を製作し学習する。		
授業内容	①各種電子素子 ②ユニバーサル基板のレイアウト図 ③プログラミング ④電子工作回路作成 ⑤はんだづけ		
評価方法	①課題作成の提出 ②試験課題作成 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポート提出		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	電気技術		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　56　時間／後期　56　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科３年		
到達目標	無人航空機に関する基本知識（機体概要・飛行方法・飛行に関する法律）や安全に操縦するための技術を身につけます。		
授業内容	①無人航空機の概要 ②飛行のルール・関連法令 ③気象・安全対策 ④点検方法 ⑤シミュレータ ⑥実機操縦訓練 ⑦安全教育		
評価方法	①課題作成の提出 ②試験課題作成 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポート提出		
その他	８０％以上の出席必要		

開講年度	2025	開講学期	☒前期　☒後期　□通期
授業方法	□講義　☒演習　□実験・実習・実技		
科目名	キャリア教育		
実務経験教員			
必須選択	☒必須　□選択　□必須選択		
授業時間	前期　16　時間／後期　16　時間　（状況よりｵﾝﾗｲﾝと対面の併用形式）		
対象学年	電子研究科３年		
到達目標	社会人・職業人として必要とされる知識や技術を身につける。また、研修を含む企業との連携授業を行う。		
授業内容	業界人講話 ①業界の現状 ②求められる人材 ③現場作業の実際 ④社会人としてのマナー 企業研修 ①現場の見学 ②作業手順 ③安全教育 ④技術の習得 コミュニケーション技術の習得		
評価方法	①課題作成の提出 ②試験課題作成 ③出席率 ④授業態度 ⑤追試・レポート提出		
その他	８０％以上の出席必要		